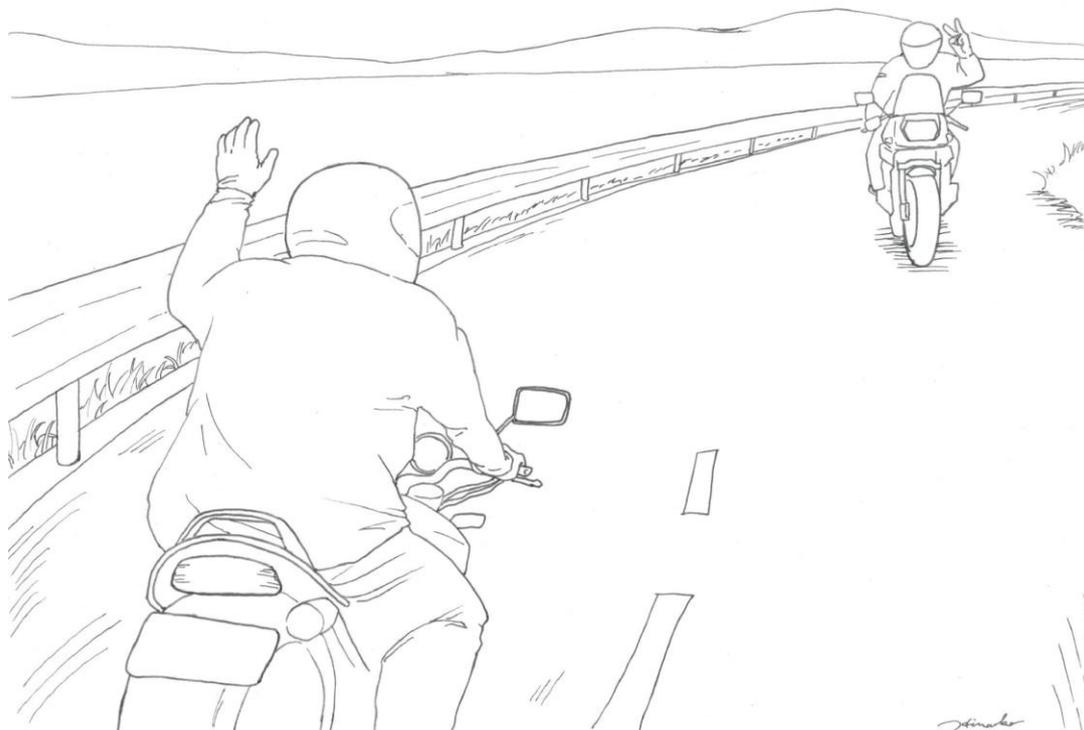


「バイクと社会」4  
ライダーの共犯者意識 -ピースサインに隠れた意味-



(Drawn by Hinako FUJIMURA)

「バイクの魅力」のところで、私は、バイクは不便な乗り物だと書きました。一人か二人しか乗れないし、荷物もたくさん載せられない。とても不便な乗り物だ、と。不便な乗り物に乗っているライダー同士の、不思議な習慣があります。

バイクで走っているときに、前から走って来るバイクが手を振ったり、小さく頭を下げたりすることがあります。知り合いだから、手を振ったり頭を下げたりするわけではありません。相手は、会ったことも、見たこともない人です。相手は前からこちらに向かってくるので、自分とは反対の方向に行きます。だから、その後、その人に会うこともありません。そんな人が手を振ってきます。

これは「ピースサイン」というものです。山に登っているとき、前から来る人に軽く挨拶をすることがあります。ピースサインは、それと同じようなものです。「こんにちは」「バイクでツーリングですか」「いいですね」「どうぞ気をつけてください」「さようなら」というメッセージを、手を振ったり、頭を下げたりして、相手に伝えます。登山のときはゆっくり歩いているので、相手が見えてから自分のところまで来るのに時間があります。挨拶をしたときに、止まって話すこともできます。しかし、バイクは自分も相

手も走っています。しかも、自分も相手も反対の方向に走っています。だから、相手が見えてから行ってしまいうまで、ほとんど時間がありません。一瞬です。そんな短い時間に、いろいろなメッセージを相手に送ります。車に乗っているときに、こんなことはありません。

いつ、だれが、ピースサインを始めたか、わかりません。しかしこれは、ライダー同士が仲間だと考える気持ち、つまり、仲間意識から生まれたものだと、私は思います。

ライダーA:「そんな不便な乗り物に乗って、あなたは変な人ですね」

ライダーB:「そうですね。でも、あなたもバイクに乗っているじゃありませんか。あなたも変ですよ」

ライダーA:「そうですね。私たち変ですね」

ライダーB:「そうですね」

と、ライダーAとライダーBが思っている。ふつうの人がしない、特別なことをしているという気持ちをAもBも持っている。それを二人が確認し合うのがピースサインだと思います。

もっと言うと、それは共犯者意識に近いものです。共犯者とは、いっしょに悪いことをした人のことです。バイクに乗ることは、悪いことではありません。しかし、バイクにはアウトロー(悪い人)が乗るというイメージがあります。アメリカの「イージーライダー」という古い映画がいい例です。だから、ライダーの仲間意識には、「私たち、ちょっと悪いことをしていますね」という共犯者意識があるのだと思います。本当は、何も悪いことはしていないのに。

バイクに乗らない人は、ときどき「バイクは危ない」「バイクは悪い」という良くないイメージを持ちます。しかし、ライダーにとって、それは、ライダー同士の仲間意識を生みます。ピースサインの裏には、このような共犯者意識が隠れているのです。それもまたバイクのひとつの魅力と言えるでしょう。

(1260字)

(2020.12 Written by Toru YOSHIKAWA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.